

# 中村かずひこ通信

【発行元】中村かずひこと未来をつくる会 〒321-4362 真岡市熊倉町3423-4 Tel. 0285-82-6285 vol.45  
ホームページ <http://www.nakamurakazuhiko.com> e-mail [tonpei@i-berry.ne.jp](mailto:tonpei@i-berry.ne.jp)



## 6月定例議会報告 6/3 ▶ 6/17

6月定例議会が、6月3日(火)から17日(火)にわたって行われました。

今回、執行部から上程された議案は、「指定管理者の指定」(情報センターが(有)ヨコタに、久保記念観光文化交流館が真岡市観光協会に)、「工事委託契約」(水処理センターの長寿命化工事を日本下水道事業団に)、「土地および建物の取得」(小松製作所の独身寮だった建物を市営住宅として活用)など計8件。審議の結果、いずれも原案通り可決されました。

質疑・一般質問は、9日(月)、10日(火)の2日間にわたって行われ、11名の議員が登壇し、執行部との論戦を展開しました。

また、9日の質疑・一般質問を前に行われた議場コンサートでは、高鳥舞さんと大越絵梨花さんの同級生ユニット「Melody」による電子ピアノとフルートの演奏が披露されました。



議場コンサートで演奏を披露した「Melody」のお2人

市民と市政のかけ橋になりたい！

☆お気軽にお声をかけて下さい。

お友達との井戸端会議、勉強会等。2〜3人でも結構です。どこへもお伺いいたします。

☆あなたのアイデアを市政にいかしたい！

お気づきの点がございましたら、どんなささいなことでも結構です。ぜひご意見を！

## 議会選出 市監査委員として続投します

中村は、平成25年5月に議会選出の市監査委員に就任し、1年間活動をしてきましたが、平成26年5月以降も続投することとなりました。

地域主権改革が進み、各自治体とも独自の判断に基づいたまちづくりが可能になりつつある一方で、財政の自律性と健全化もより強く求められています。

監査委員在任中は、慣例により定例議会での一般質問ができませんが、真岡市政の効率性や透明性について、これまで以上に厳しい目でチェックをしていきたいと考えております。



7月29日から行われた「決算監査」にて

### 【解説】監査委員とは？

地方自治法に基づいて自治体に必ず置かれている機関で、首長から独立した立場で各自治体の予算の執行や財産の管理、地方公営企業の経営のほか、一般行政事務について公正で効率的な運営が確保されているかどうかを点検する。定期的な監査のほか、住民や議会からの監査請求にも対応する。

真岡市の場合、監査委員の定数は2名で、事業の経営管理や行政運営などに関して優れた識見を有する者から選出される委員と、議会から選出される委員とで構成され、いずれも市長が議会の同意を得て選任する。

「見逃した！」という方に  
バックナンバーをお送りします

これまで「未来をつくる会」では、毎回定例議会終了時に、「中村かずひこ通信」を発行して来ましたが、1〜45号までを見逃された方は、お気軽にご連絡下さい。こちらからお送りさせていただきます。



## 中村、入籍をいたしました

中村は、7月23日(水)に婚約者である大堀光江と真岡市役所を訪れ、婚姻届を提出。入籍をいたしました。

これからパートナーの協力を得ながら、当初から掲げてきた『超一流のいななかまちづくり』の実現に向けて、議員活動に一層邁進をしていく所存です。

これまでお世話になったすべての方々に心から感謝を申し上げますとともに、今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願ひいたします。



次回発行予定日

11月9日(日)

発行予定です。新聞の折り込みチラシをご覧ください。

# 4月12日 陸上競技場がオープン

# 真岡市総合運動公園整備事業

平成23年から小林地区において整備を進めている真岡市総合運動公園は、このほど陸上競技場をメインとする第1期工事が完了。4月12日にはオープニングセレモニーが開催されました(供用開始は6月1日)。

今回は、これから先の整備事業計画(第2期~4期)などについてご説明いたします。

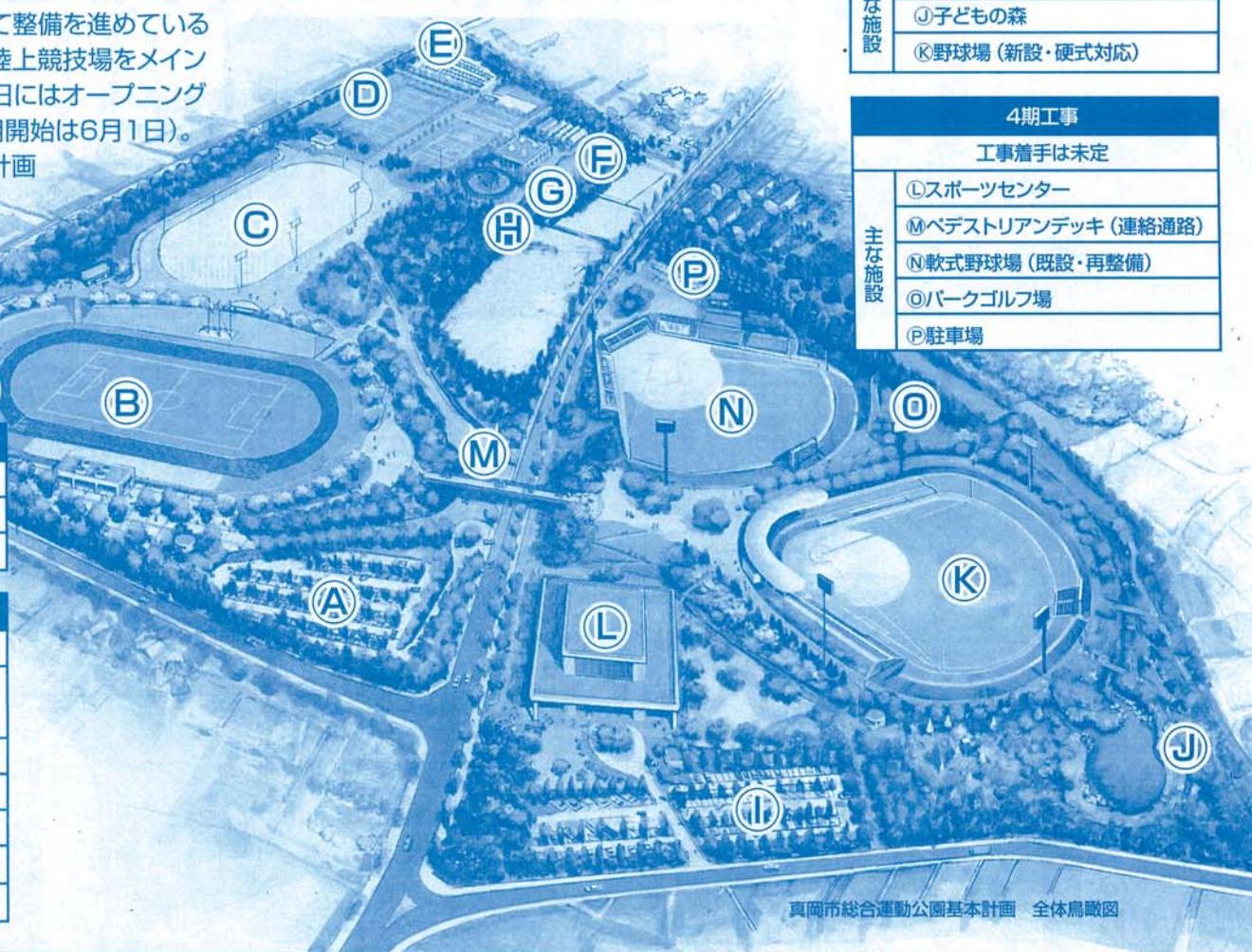
## 南ブロック(12.9ha)

3期工事	
工事着手は未定	
主な施設	①駐車場
	②子どもの森
	③野球場(新設・硬式対応)

4期工事	
工事着手は未定	
主な施設	④スポーツセンター
	⑤ベデストリアンデッキ(連絡通路)
	⑥軟式野球場(既設・再整備)
	⑦パークゴルフ場
	⑧駐車場

## 北ブロック(13.7ha)

1期工事	
平成23~25年度	
主な施設	⑨駐車場(205台)
	⑩陸上競技場・管理棟
2期工事	
平成26~30年度	
主な施設	⑪多目的広場・サブトラック(ソフトボール・ニュースポーツ対応)
	⑫テニスコート(10面)
	⑬駐車場(80台)
	⑭弓道場
	⑮クラブハウス
	⑯相撲場



真岡市総合運動公園基本計画 全体鳥瞰図

# 数字で見る真岡市 ~住みよさランキング・経営革新度調査~

今回は東洋経済新報社が毎年発表している「住みよさランキング」、そして日本経済新聞社が2年に1度発表している「経営革新度調査」について、最新のデータをもとに栃木県内の他市と比較をしながら見て行きたいと思っております(全国の市・特別区の数813)。

## 住みよさランキング (2014年版)



ちなみに、「住みよさランキング」で真岡市が最も高い順位となったのは3位(2008年)でした。

	真岡	宇都宮	足利	栃木	佐野	鹿沼	日光	小山	大田原	矢板	那須塩原	さくら	那須烏山	下野	
住みよさ(総合評価)	207位	102位	396位	※ ---位	286位	489位	482位	134位	441位	261位	94位	113位	722位	193位	
各分野の評価	安心	406位	529位	627位	---位	619位	544位	573位	615位	560位	313位	515位	346位	578位	431位
	利便	495位	113位	156位	---位	238位	637位	435位	136位	328位	310位	80位	352位	711位	696位
	快適	66位	64位	382位	---位	186位	343位	611位	71位	387位	575位	232位	158位	763位	54位
	富裕	234位	82位	367位	---位	323位	336位	356位	127位	345位	348位	217位	267位	596位	122位
	住居	445位	660位	484位	---位	426位	293位	275位	585位	496位	262位	475位	255位	78位	318位

※栃木市は、岩舟町との合併によりデータが揃わなかったため、今回のランキング対象から除外されている。

## 経営革新度調査 (2013年版)



前回の「経営革新度調査」では、真岡市は289位でした。順位を下げた要因としては、「効率化・活性化度」がBBB→Bと2ランク下がったことなどが考えられます。

	真岡	宇都宮	足利	栃木	佐野	鹿沼	日光	小山	大田原	矢板	那須塩原	さくら	那須烏山	下野	
総合評価順位	433位	117位	258位	48位	371位	502位	284位	16位	390位	441位	489位	560位	262位	316位	
総合偏差値	47.83	60.84	54.09	66.46	49.92	45.82	52.73	74.25	49.27	47.59	46.22	43.73	53.85	51.6	
総合評価	B	A	BB	A	B	B	BB	AA	B	B	B	CCC	BB	BB	
各分野の評価	透明度	CCC	BBB	CC	A	BB	B	CCC	A	CC	CC	CC	CCC	A	CCC
	効率化・活性化度	B	A	BB	BB	B	B	BB	AA	BBB	BB	CCC	B	B	BB
	市民参加度	B	BBB	B	A	BB	BB	BBB	A	BB	BB	B	B	BB	B
	利便度	B	BBB	AA	A	B	CC	BB	AA	B	BB	BB	CCC	B	BBB

※評価は最高がAAA、最低がC

# コラム むーむあっぴ 『消滅可能性都市』 ～選択と集中という課題の中で～

議会選出の市監査委員として、もう1年間活動させていただくこととなった。そのため、慣例により定例会議での一般質問などができない。従来とは違った角度から真岡市政の課題を見つめ、指摘できる立場になったものの、議場において論戦ができない歯がゆさは感じる。

その一方で、自分が質問できない分、同僚議員の質問をこれまで以上に冷静に見つめる機会が与えられているのも事実である。6月定例会議では、11名の議員が執行部との論戦を展開した。見ていると「空き家対策」「高齢者福祉」「中心市街地の活性化」など、議員によって指摘する角度は違うものの、根底では「人口減少時代の中で、真岡市はどのような対策を講じるのか?」ということに共通して懸念を抱き、時間をかけて質問をしていたように思えた。

この背景には「消滅可能性都市」というショッキングな発表が行われたことが、多分にあつたのではないかと推察される。

若年女性の流出などにより、2040年に全国の896市区町村が消滅の危機に直面する。増田寛也元総務相など学識経験者で構成する「日本創成会議」の人口減少問題検討分科会が、そんな試算結果を発表したのは今年5月8日のことである。これは、国立社会保障・人口問題研究所による将来推計人口のデータを基に、最近の都市間の人口移動も加味して2040年の「人口の再生産を中心的に担う20～39歳の女性の人口」を試算したものだ。2010年と比べて若年女性の数が半分に減少する市区町村を「消滅可能性都市」と定義づけている。この中には、大阪市の西成区や大正区、東京都豊島区などの都市部も含まれており、秋田県は大湯村を除くすべての市町村が「消滅可能性都市」となっている。

こうした発表が行われたのだから「真岡市は大丈夫なのか?」という疑問を抱くのは当然のことと思える。ちなみに、真岡市をはじめ栃木県内の自治体は、右表のような状況である。ご覧になられて「こんなに減少するのか…」あるいは「県内では減少率が少ない方なのか…」など、抱く感想は人それぞれだと思う。この調査内容自体に疑問を唱える方もいるかも知れない。ただし、真岡市としても安穩としていられる状況ではないことだけは、紛れもない事実である。

特にこの1～2年、人口減少問題に対して全国各地の自治体で先進的な取り組みをしている様子がマスコミを通じて紹介される機会も増えている。真岡市としても様々な取り組みを行ってはいるし、地域としての潜在能力も他の自治体と比べて低くない。しかし、それらが体系的なものとしてまとまっていらないように映るのである。結果として、市の内外にアピール・メッセージとして発するものが、どうしても弱くなってしまっているのではないだろうか。

この度発表された「日本創成会議」の報告書の中に、何度も「選択と集中」という言葉が出てくる。言い方を替えれば「今後、真岡市は何を看板にして自治体間競争を生き残ろうとしているのか」ということになる。

今回の定例会議において、人口減少問題を懸念している各議員の質問に対して、執行部側から方向性が示されたとは言いがたい。その考え方については、もっと明確にされるべきである。真岡市の「選択と集中」が今問われている。

自治体名	2010年 総人口	2010年 20～39歳 女性人口	2040年 総人口予測	2040年 20～39歳 女性人口予測	若年女性 人口変化率 (2010→2040)
那珂川町	18,446	1,604	10,417	460	-71.3%
塩谷町	12,560	1,174	6,847	354	-69.8%
茂木町	15,018	1,293	7,777	412	-68.2%
那須烏山市	29,206	2,794	17,291	1,006	-64.0%
岩舟町	18,241	1,875	11,741	781	-58.3%
日光市	90,066	8,831	57,097	3,721	-57.9%
那須町	26,765	2,332	20,188	1,071	-54.1%
足利市	154,530	16,386	102,761	8,278	-49.5%
益子町	24,348	2,598	17,299	1,317	-49.3%
栃木市	145,783	16,144	102,144	8,341	-48.3%
市貝町	12,094	1,272	9,031	657	-48.3%
野木町	25,720	3,130	19,770	1,654	-47.1%
鹿沼市	102,348	11,583	77,096	6,159	-46.8%
矢板市	35,343	3,832	27,407	2,092	-45.4%
佐野市	121,249	13,235	87,196	7,255	-45.2%
壬生町	39,605	4,953	29,958	2,735	-44.8%
大田原市	77,729	9,247	60,538	5,157	-44.2%
高根沢町	30,436	3,682	22,935	2,094	-43.1%
芳賀町	16,030	1,657	11,929	977	-41.0%
下野市	59,483	7,665	50,442	4,877	-36.4%
上三川町	31,621	4,033	26,831	2,611	-35.3%
<b>真岡市</b>	<b>82,289</b>	<b>10,325</b>	<b>66,644</b>	<b>6,775</b>	<b>-34.4%</b>
那須塩原市	117,812	14,705	107,794	9,896	-32.7%
さくら市	44,768	5,196	40,375	3,560	-31.5%
宇都宮市	511,739	66,063	463,715	45,641	-30.9%
小山市	164,454	20,959	153,943	14,974	-28.6%

※『日本創成会議』人口減少問題検討分科会が発表したデータを基に、栃木県内の市町を若年女性人口変化率の大きい順に並びかえたもの。  
※調査時点で合併前だった旧岩舟町も対象となっている。  
※那珂川町から那須町までが『消滅可能性都市』と見なされる。



報告します

## 民生産業常任委員会 行政視察

7月2日～4日にかけて、民生産業常任委員会では福岡県北九州市と熊本県八代市へ行政視察に赴きました。

### 北九州市 (再生可能エネルギーの導入・普及)

北九州市は古くから工業地帯として栄えてきたが、その一方で深刻な産業公害も経験している。そのため、環境問題に対する市民の関心度も高く、他の自治体に先駆けた取り組みが展開されてきた経緯がある。

同市が「環境未来都市」として国から選定されたのは平成23年のこと。以来、「再生可能エネルギーの普及・促進」はその中の重点課題の1つとして位置づけられた。太陽光・風力・水力・潮力・廃棄物などの発電で、かなり革新的とも思える事業が行われている。

個人的には、八幡東田地区で行われている「スマートコミュニティ」、市独自に立ち上げを進めているPPS(特定規模電気事業者)などの取り組みについても関心を抱いた。

### 八代市 (認知症応援ネットワーク事業)

現在、八代市の高齢化率は30.2%にも及ぶ。要介護認定者全体のうち約6割(約4500人)が認知症の症状があるという状況を踏まえ、平成23年4月から「認知症応援ネットワーク事業」がスタートした。

市内6ヶ所ある地域包括支援センターや医療機関、警察、市内事業所などと連携を図り、徘徊している高齢者を見かけた場合の連絡体制が構築されている。

また、事業の内容はもちろんだが、市役所内に高齢者に関するサービスの一元化を図る部署(長寿支援課)が設けられていることも、今後参考とすべき点であると思われた。

今回の視察では、右記の金額が公費でまかなわれました。

総額	104,260円	出所	議員費のうち旅費
内訳	交通費、宿泊費、議員日当		

※当然のことですが、視察中の飲食代は全て議員の個人負担です。  
※議員日当(3,300円×3日)の是非については、今後も課題としていきたいと考えております。

-----キリトリ線-----



料金受取人払郵便

真岡局承認

531

差出有効期間  
平成27年10月  
26日まで  
(切手不要)

3
2
1
4
3
9
0

真岡市熊倉町3423-4

真岡市議会議員

中村かずひこ行



市政アンケート

差し支えなければ、お名前、ご住所等もご記入ください。

お名前	
ご住所	(〒 - )
お電話	
Eメール	

